

民生委員活動で支援した新潟市の
孤独死・孤立死に関する調査報告書
概要版

平成 25 年 9 月

新潟市民生委員児童委員協議会連合会

新潟市社会福祉協議会

1. 調査の目的と概要

【本調査の背景と目的】

平成24年1月に札幌市で姉妹（妹：知的障がい）が自宅で亡くなって発見され、翌2月にはさいたま市で餓死が疑われる状態で3人が亡くなって発見、立川市では母子（子：知的障がい）が死後1～2カ月後に発見された。これらはメディアにも大きく取り上げられ、全国的に孤独死・孤立死に社会的関心が高まった。しかし、孤独死・孤立死の定義が不明瞭で新潟市においても発生件数等、把握できない状況がある。そのような状況の中、本来であれば親族等が対応すべきものが血縁や地縁が脆弱化し、孤独死・孤立死への対応においても民生委員児童委員が支援せざるを得ない状況も散見される。そこで、新潟市内の孤独死・孤立死の発生件数や民生委員児童委員の支援状況を本調査で把握し、この社会的課題解決に向けた基礎資料とすることを目的に本調査を実施した。

【調査概要】

①一次調査（簡易調査）

手 法：集合調査法（地区定例会での聞き取り）

実施時期：H24年10月

調査対象：新潟市内の民生委員児童委員（1,375人）

調査期間：平成22年12月1日～平成24年9月30日

（現職の活動を調査するため一斉改選後から現在までとする）

②二次調査（詳細調査）

手 法：面接法（実体験者の面接による聞き取り）

実施時期：H25年5～6月

調査対象：一次調査で孤独死・孤立死の対応経験があると回答した民生委員105人のうち19人（旧市内は各区3人、旧市外は各区2人）

【本調査における孤独死・孤立死の定義】

『自宅で誰からも看取られることなく亡くなり、その後、発見された方』

*本資料では「孤独死」と「孤立死」が混在していますが、本資料では同義と解釈してください。

2. 一次・二次調査結果からの総括（概要）

○本調査は新潟市の孤独死・孤立死の実態を明確に表したものではないが、その対応に多くの民生委員児童委員が支援していることがわかった。しかし、決してその対応は民生委員児童委員の役割ではなく、民生委員児童委員の善意に支えられている。

○2次調査で孤独死・孤立死の危険因子として、「家の中がかなり汚れている」「親族や地域との関わりを持たない」「経済的困窮」等があることがわかった。親族や地域との関わりを見直し、いかに社会的な孤立を解消できるかがポイントとなる。

○一方で日常生活に支障がなかったと思われる方が突然亡くなり、親族により発見されたケースも多かった。社会的関わりや親族との繋がりや子どもや親族との繋がりがあった方が死後数日経過して発見されている。つまり、「社会的に孤立した生活の末、死後相当な期間を経過して発見される孤独死」と「繋がりがありながら突然死し、その後発見された孤独死」の2種類がある。やはり、孤独死を完全に防ぐことは難しく、また、2種類の孤独死は社会的な繋がりや親族の心情等も考慮すると、やはり一緒にはできないのではないかな。

○緊急連絡先がわからないことは事案発生時に苦慮することが本調査で明らかになったので、「緊急情報キット」等を活用し緊急の連絡先を確保したい。

○電気・ガス・水道などのライフライン事業所のほか、郵便配達・新聞販売店・生協・弁当配達・宅配便等、自宅訪問する民間事業所にも協力いただき、早期発見にも努めるべきだ。

○発見が遅れば遺体は腐敗する。そうなれば、異臭など公衆衛生上も問題があることはもちろんだが、何より本人の尊厳が損なわれる。

*今回の調査結果を踏まえ、孤独死・孤立死の課題は民生委員児童委員をはじめとした第三者の善意に支えられるのではなく、オール新潟で取り組まなければならない社会的課題といえる。民生委員児童委員はその協力機関のひとつと考えるべきである。

*死は生を映す鏡である。対岸の火事ではなく、自ら親族や近隣との関係性を再確認し、社会的なつながりを意識した生活を送るという自助をベースに、地域住民だけでなく、民間事業者を含めた共助、公的介護保険をはじめとした公助、これらを重層的に組み合わせることが肝要である。

本調査は対応経験のある105名の民生委員のうち19名(18%)にヒアリング調査を実施した抽出調査の結果である。本調査をプレ調査と捉え、今後、対象者を拡大したヒアリング調査の実施も検討しなければいけない。

3. 一次調査（簡易調査）結果のまとめ

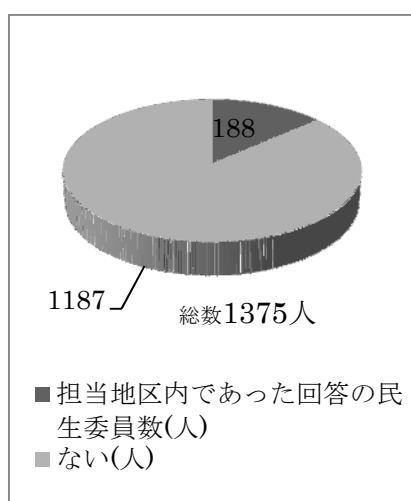
	民生委員	①地区内で孤独死・孤立死があった		② ①のうち民生委員として対応した	
	定数	担当地区内で孤独死・孤立死があったと回答した民生委員数(人)	地区総件数	対応した(人)	地区対応総件数
北区	112	12	14	10	10
東区	217	28	33	19	23
中央区	359	62	64	33	38
江南区	113	18	23	9	11
秋葉区	137	8	11	6	6
南区	76	10	10	8	8
西区	232	37	39	11	12
西蒲区	129	13	13	9	9
合計	1375	188	207	105	117

全民生委員に占める割合 13.7% 15.1% 7.6%

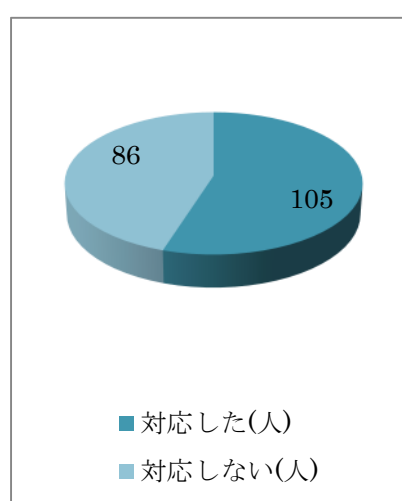
①である回答のうち対応した民生委員の割合 55.8%(105/188)

地区総件数のうち民生委員対応総件数の割合 56.5%(117/207)

①地区内で孤独死・孤立死があった



②民生委員として対応した



(調査項目①より)

○調査期間(1年10カ月)で民生委員・児童委員が把握している限りだが、市内全体で207件の孤独死が発生していた。市内で約3日に1人孤独死していることになる。

(調査項目②より)

○207件のうち、117件(56.5%)で民生委員・児童委員が何がしかの対応をしていたことがわかった。対応経験のある民生委員は105名で、全体の7.6%であった。

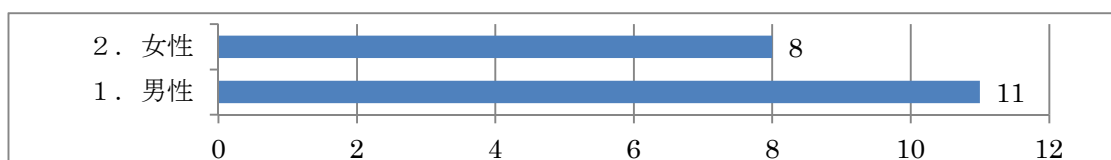
(調査項目①・②より)

○人口の多い旧市内(中央区・東区・西区)で発生件数が多い。人口比で比較してもかなり都市部の発生が多く、都市部特有の課題があると思われる。しかし、孤独死ゼロの区はなく、市内共通の課題といえる。

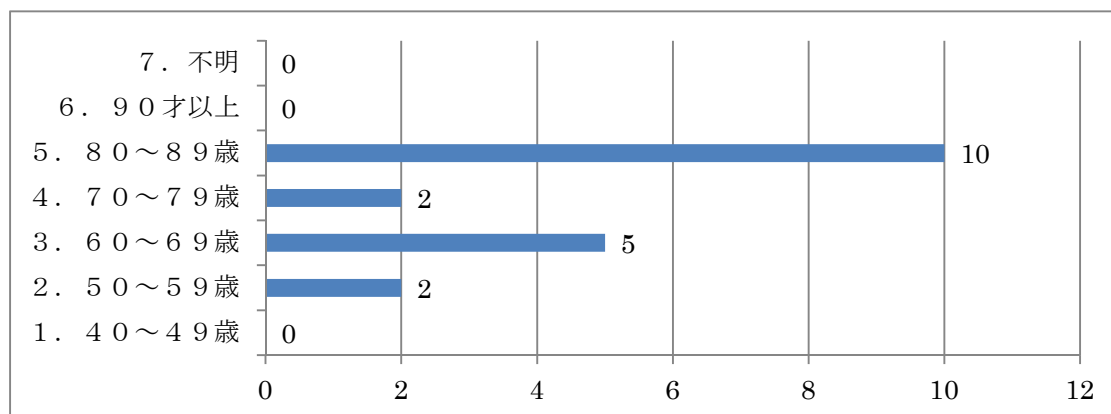
4. 二次調査(詳細調査)結果のまとめ

I. 調査項目①・②・⑱・⑲・⑳(属性や関わり等)

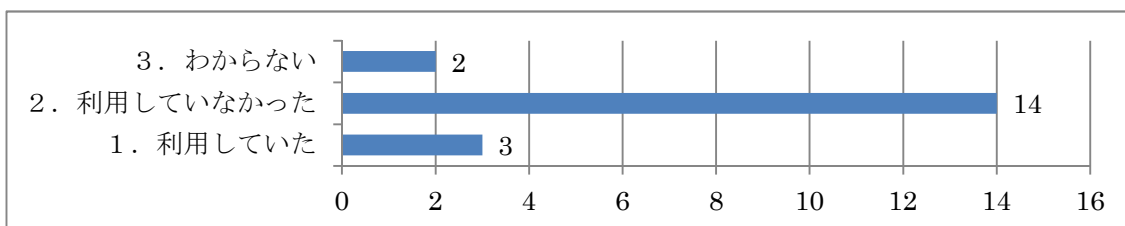
問① 孤独死された方の性別は何ですか?



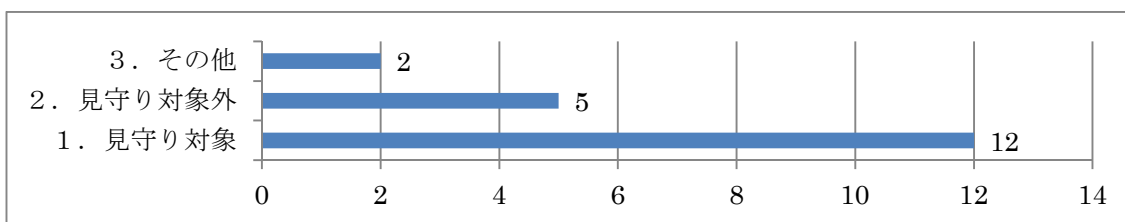
問② その方の年代は何ですか?



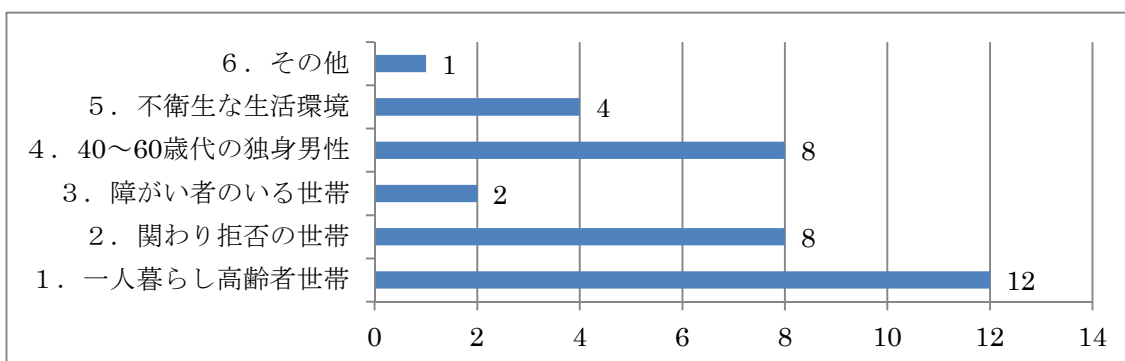
問⑱ その方は介護保険サービス等を利用していましたか?



問⑲ その方と民生委員との関わりはありましたか?



問⑳ 孤独死の危険性が高いと思われるのはどのような世帯ですか? (複数回答可)



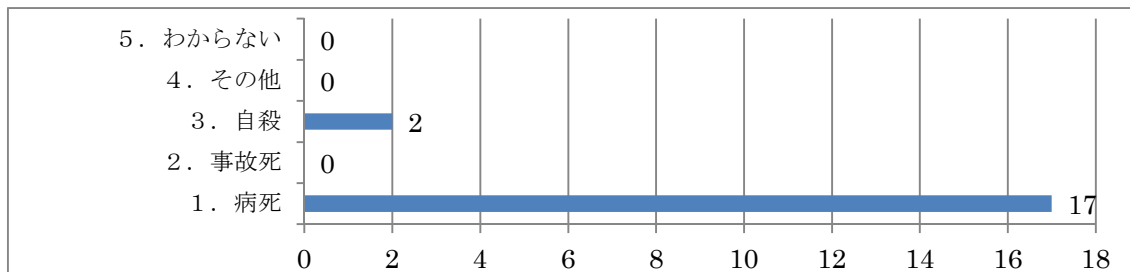
(調査項目①・②・⑱・⑲・⑳より)

- ・新潟市では男性の方が若干多い。
- ・年代は80歳代が最も多い。
- ・介護サービス利用なしが多い。

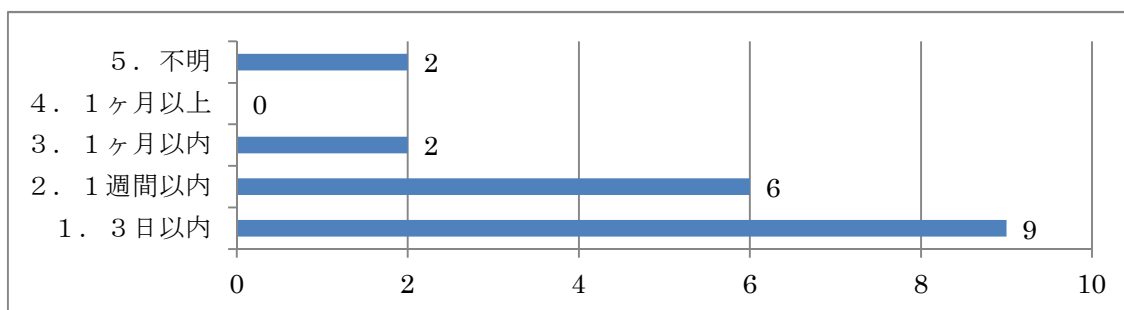
*新潟市では民生委員が見守り対象とする高齢者の一人暮らし世帯は孤独死の危険性が高い傾向がある。また、日常生活は自立していたものの、突然亡くなられた方が多いことも推察できる。

II. 調査項目③・④（死因と発見までの日数）

問③ 亡くなられた死因は何でしたか？



問④ その方は死後、どれくらい経過して発見されましたか？



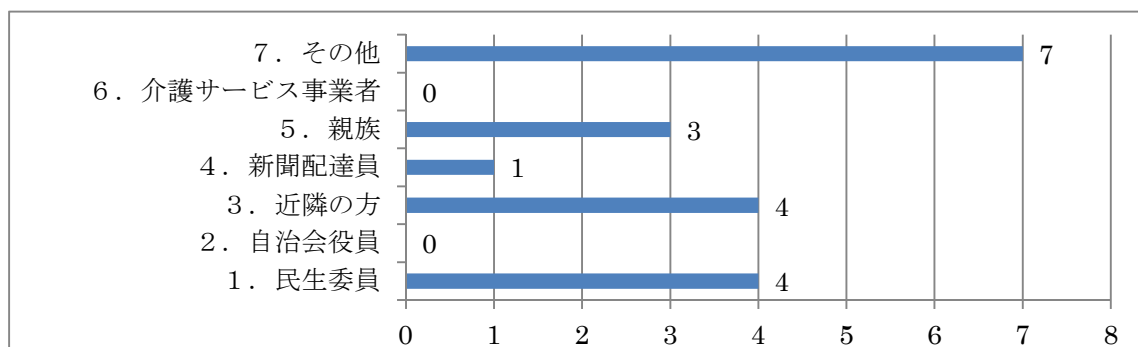
（調査項目③・④より）

- ・死因は病死が圧倒的に多い。
- ・死後、3日以内に発見されたケースが最も多い。
- ・死後、1か月程度も少数あり。

*概ね3日以内に発見されているようだが、新潟市でも死後、随分経過してから発見されるケースもあった。死後相当な期間経過することは、近隣にも迷惑がかり公衆衛生上問題がある。つまり、たとえ自宅で一人で亡くなったとしても、早期に発見される対策が必要ではないか。

III. 調査項目⑥（異変の気づき）

問⑥ 誰が最初に異変に気づきましたか？

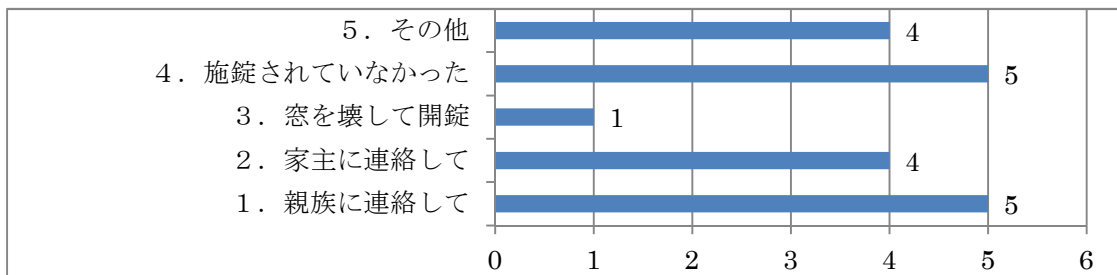


(調査項目⑥より)

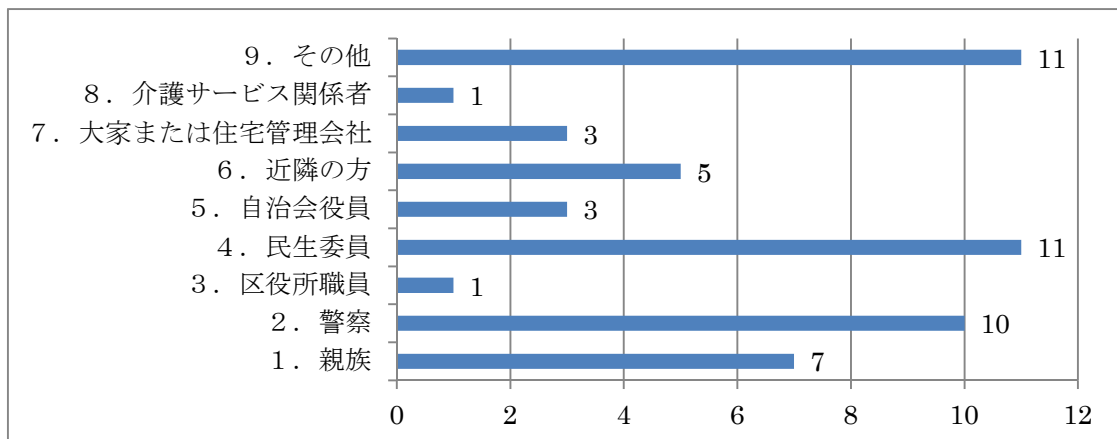
* 民生委員が日頃の活動で第一発見者となりうる可能性は決して低くない。

IV. 調査項目⑦・⑧・⑩・⑪・⑫・⑬ (孤独死対応)

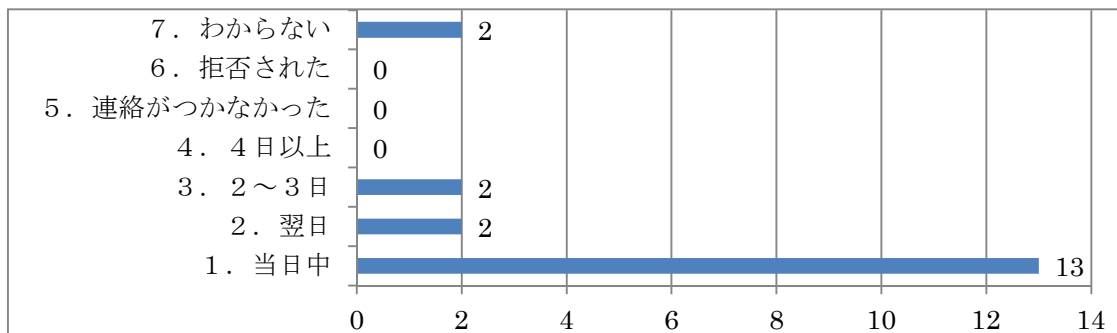
問⑦ ドアの開錠はどうしましたか?



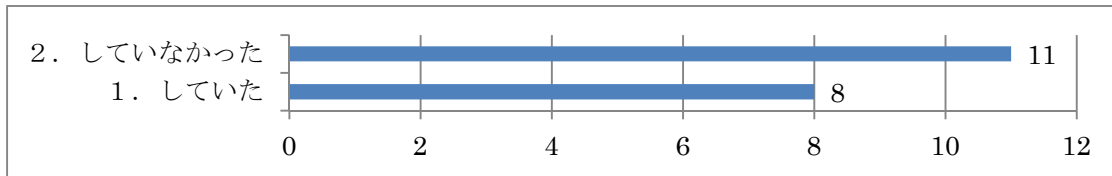
問⑧ 立会いは誰がしましたか? (複数回答可)



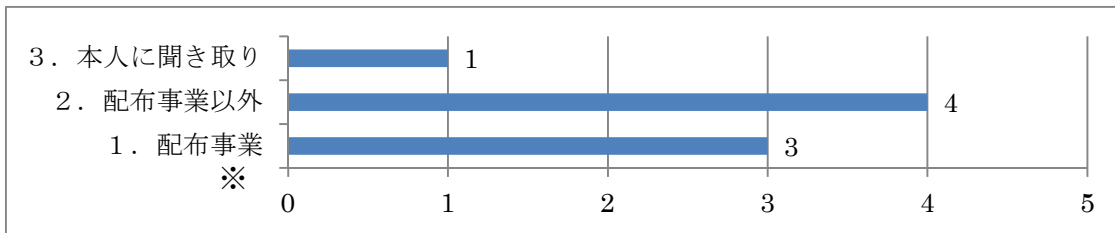
問⑩ 緊急連絡先(身内等)に連絡が取れるまでどれくらいかかりましたか?



問⑩ その方の緊急連絡先（身内等）は把握していましたか？

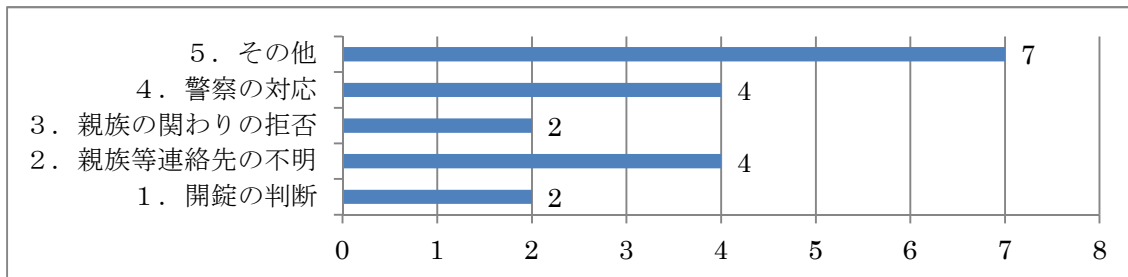


問⑫ その方の緊急連絡先をどのようにして把握していましたか？



※ 配布事業…安心箱、安心袋、緊急連絡カード、緊急情報キット

問⑬ もっとも苦労した点は何ですか？



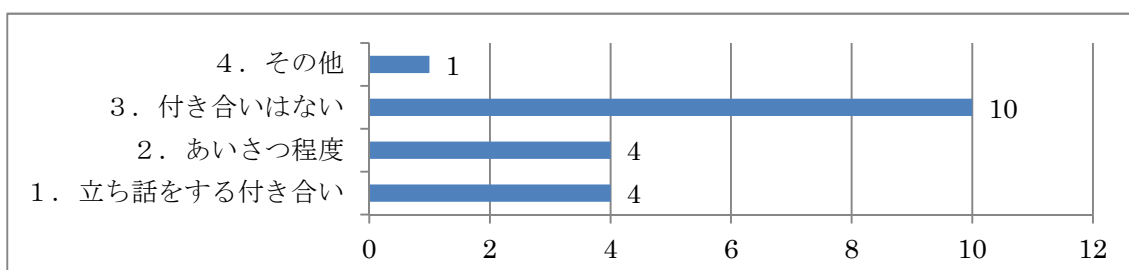
(調査項目⑦・⑧・⑩・⑪・⑫・⑬より)

・親族に連絡がとれるまで2～3日を要したケースもあった。

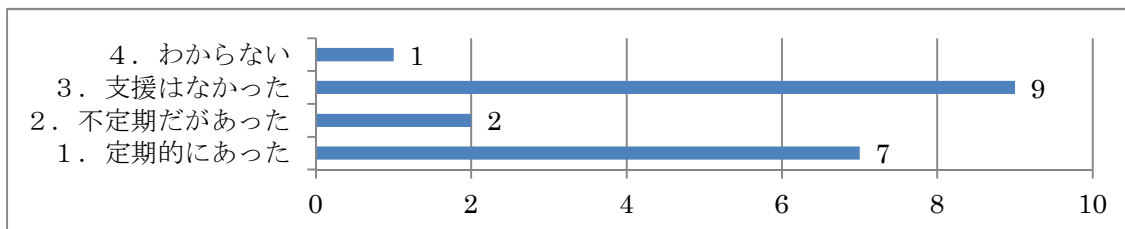
*民生委員や自治会等が親族等の連絡先を事前に把握していることは重要で、災害時要援護者名簿、あんしん連絡システム、安心箱、緊急情報キット等を活用することは有効な手段である。

V. 調査項目⑭・⑮・⑯・⑰（生活実態）

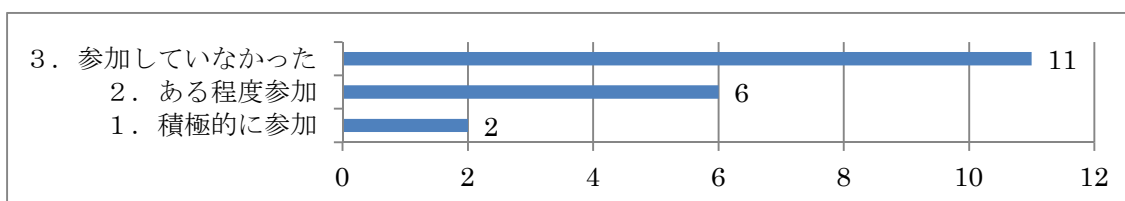
問⑭ その方の近所付き合いの様子はいかがでしたか？



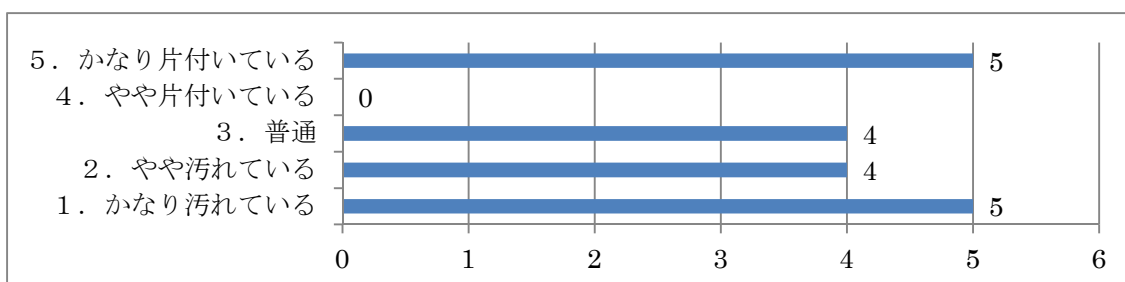
問⑮ その方は親族の訪問や電話による安否確認などの支援はありましたか？



問⑯ その方は地域活動（自治会・老人会・サークル活動等）や仕事をしていましたか？



問⑰ その方の家の中の様子はいかがでしたか？



（調査項目⑭・⑮・⑯・⑰より）

・孤独死・孤立死に至った方々は「近所づきあい」「親族の訪問」「地域活動」が少ない人で、「家の中がかなり汚れている」傾向があることがわかった。

・生活保護世帯でこのような生活状況の方が多くも民生委員から話が聞けた。

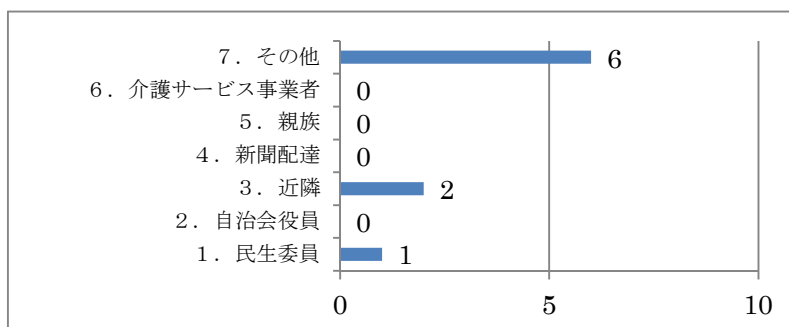
*親族や地域とのつながりが少ない社会的孤立した状態で生活している方は孤独死・孤立死の危険性が高いといえる。また、不衛生な状態やアルコール疾患等のある方はひとつのサインではないか。

VI. 調査項目④と⑥・⑭・⑮（発見までの日数からみた関係性）

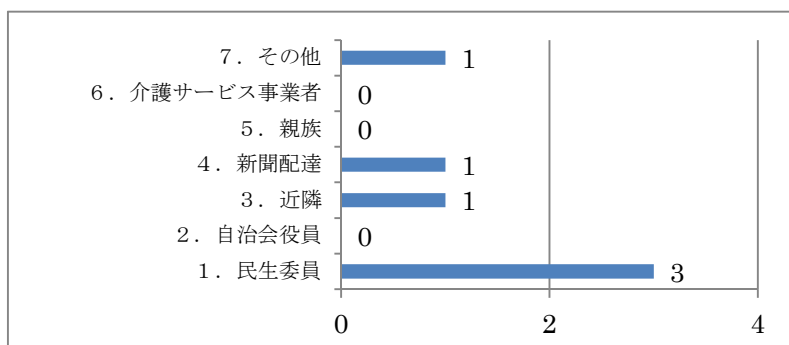
発見までの日数が不明の2名を除いて、「3日以内」「1週間以内」「1か月以内」で発見までの日数といくつかの項目との関係性をみた

【調査項目④と⑥】

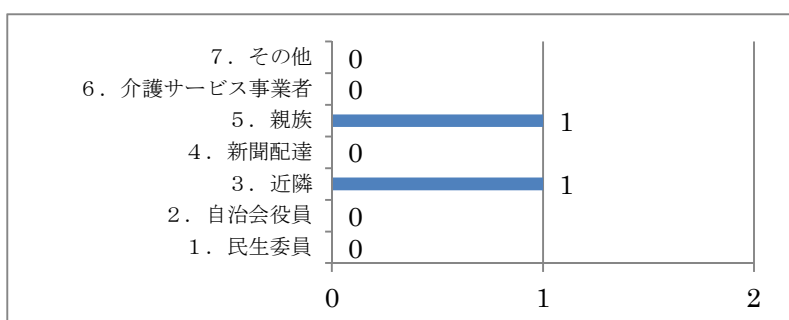
<3日以内（9名）×誰が異変に気づいたか>



<1週間以内（6名）×誰が異変に気づいたか>



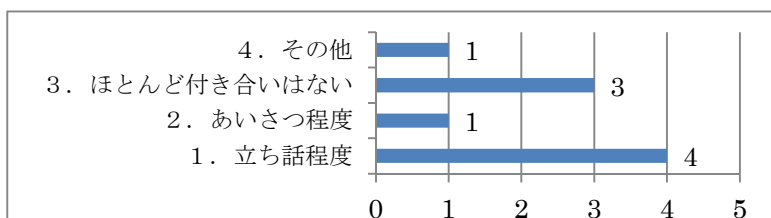
<1か月以内（2名）×誰が異変に気づいたか>



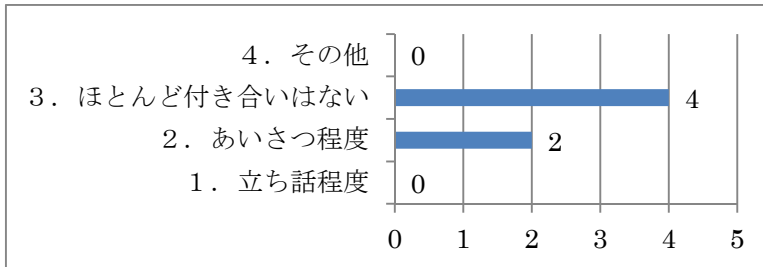
・3日以内はその他（宅配業者・配食サービス・友人等）、近隣、新聞配達、友人らが異変に気付いており、親族は1週間以内、1か月以内から出現し、親族の安否確認は頻回ではないことが伺える。

【調査項目④と⑭】

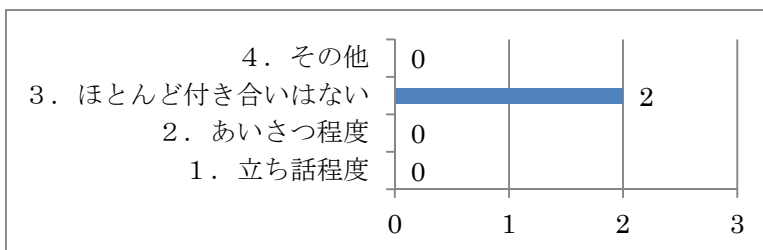
<3日以内（9名）×近所付き合い>



<1週間以内（6名）×近所付き合い>



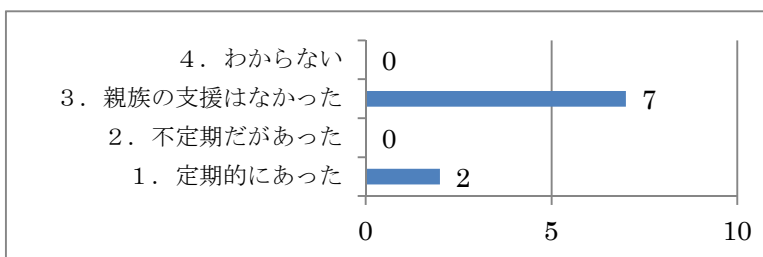
<1か月以内（2名）×近所付き合い>



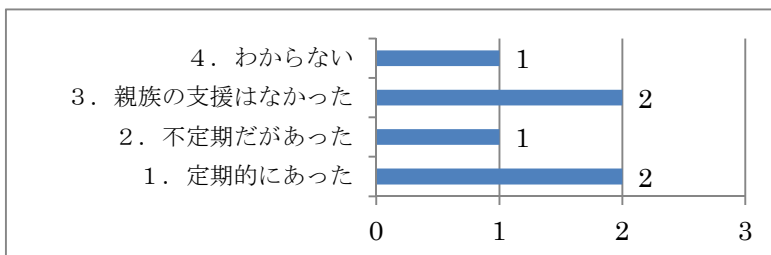
・近所付き合いはほとんどないのが大半を占めるが、3日以内、1週間以内で発見された方々はいさつ程度等の付き合いはあった方も数名いる。しかし、1か月以内となるとそれはなくなる。近所付き合いと発見までの日数の関係性はあるのではないか。

【調査項目④と⑮】

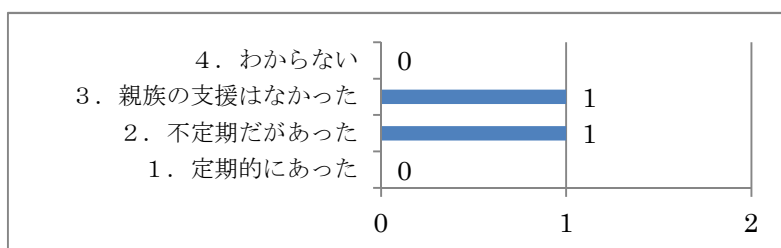
<3日以内（9名）×親族の安否確認や支援>



<1週間以内（6名）×親族の安否確認や支援>



<1 か月以内（2名）×親族の安否確認や支援>



・親族の支援と発見までの日数は関係性があまりないようだが、孤独死全般でとらえれば、親族の支援がない人が多く、親族との関係性が薄い傾向があるかもしれない。しかし、急性疾患等で関わりがありながらも孤独死に至る人もいる。

・孤独死に至っている人の生活実態は、全般的に親族や地域住民との繋がりが弱い、「3日以内」と「1か月以内」を比較した場合、「1か月以内」のほうが「近所づきあい」「地域活動への参加」がより希薄であった。